

用水路における個人レベルの駆除、その後

琵琶湖博物館うおの会 中村 聡一

農業用ため池などの比較的小さく、水抜きが容易である水系における外来魚駆除は物理的に確実にを行うことが期待できる。逆に、広い水系や網の目のように張り巡らされた水系における駆除は、現時点の技術水準では確実な駆除は不可能であると言わざるを得ない。しかしながら、未来に残すべきものを考えるとき在来の生態系に害しか及ぼさない生態的特性を持つオオクチバス、ブルーギルなどの肉食性・雑食性の外来魚は、たとえ少しずつであろうとも、また、非効率であろうとも生態系から取り除かれ続けなければならない。外来魚駆除については全国で様々な機関がそれぞれの対象の水域について今現在とりうる最善の手法をもってその実行に当たっている。琵琶湖周辺においても大小様々な外来魚駆除の催しが開かれ、多数の参加がある。

昨年の本会で発表したように筆者は大和川水系の佐保川に流れ込む用水路（奈良県大和郡山市）においてオオクチバスを駆除しているが、未だ根絶には至っていない。今回の発表では駆除活動のその後の報告（0尾）と、工事に伴い流路が替わったことを中心に、ターゲットが減ってきたときの良い駆除方法を模索している様を知ってもらおうと考える。

駆除を実施している用水路の途中で2008年の農繁期に水門を通して佐保川から水の流入が確認された。また、その付近の佐保川でオオクチバスが2尾目視できたので、そこからの侵入も考慮すべきかもしれない。

2008年夏に道路工事に伴って用水路の一部が曲げられ暗渠化された。それによって今まで一番よかったポイントで全く釣れなくなってしまった。ただ、これまでに大ゴイがいた場所である幅1～2mの長さ約100mの範囲が約半分の長さになったが、コイは目視された。

駆除方法は以前と同じくスジエビおよびアメリカザリガニを餌とした釣りである。現在までの駆除状況は、昨年に報告したとおり2006年11月に体長190～195mmのオオクチバスを4尾、2007年11月に208、224mmの2尾、計6尾である。2008年9月に少し上流側に離れたポイントで2尾目視したので、駆除は完了していない。